平成２５年度研究成果中間報告書《平成 25・26 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	５９	都道府県・指定都市名	京都市
幼稚園（園児数）	京都市立中京もえぎ幼稚園　（１７６人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：〒６０４－０８８３京都市中京区間之町通竹屋町下る楠町６０１－１
電話番号：０７５（２５４）―８４４１
研究内容等を掲載しているホームページのURL：
http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=500708

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：１幼稚園
○研究のキーワード：自己発揮　気持ちを調整する力　折り合い　自律性
基本的生活習慣の自立
○研究成果のポイント：　幼児が，集団生活の中で自己発揮と共に人と折り合いをつけながら気持ちを調整する力を育んでいく発達の道筋を明らかにした。幼児は教師との信頼関係を基盤に教師と折り合いながら新しい環境に慣れ，自立への自信をつけていく。遊びの中で様々に自己を表出し，他の幼児と折り合いながら場を共有し，友達と遊ぶ楽しさを感じていく。その遊び仲間とイメージを共有する楽しさから，クラスや学年，異年齢児など，集団の中で折り合いをつけながら意欲的に自己を発揮していく。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

幼児が自己を発揮しながら人と折り合いをつけ，気持ちを調整する力が育つための教師の援助や環境の在り方を考える
～自立心・自律性が育つようにするための教育課程の編成を通して～

（２）研究主題設定の理由

本園は京都市の中心部にあり，昔からの地域３世代での同居家庭がある一方，核家族が多くなり保護者の価値観も多様である。幼児は，自分の思いと違うことがある時に，折り合いを付けることができず，自分勝手と思われる行動をとったり，逆に不安で自分の思いを出せなかったり，友達の思いに合わすことで安定したりしているなどの姿が見られる。幼児が教師や他の幼児と集団で生活する楽しさを感じながら，自分のことが自分でできる喜びを感じ，「基本的生活習慣を身につけていくこと」，また「自信をもって様々に自己を発揮していくこと」，「人とかかわる経験を重ね，折り合い，気持ちを調整する力を身につけていくこと」は本園において取り組むべき重要な課題と考える。

（３）研究体制

・　園内研究主任を中心に，学年主任を交えた主任会で方針を決定し，全教員参加による研究会にて共通理解する。学年教員と教頭による学年会でエピソード研修や教育課程の編成を進める。学年会で討議したことを全体研究会にて検証する。
・　首席指導主事，学校運営協議会理事である学識経験者に取組を報告し，指導助言を受ける。

（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	・「折り合い」「自己発揮」などの文言やテーマについて認識の共通化を図る。 ・エピソードをもちよりテーマに基づいて検証し教育課程の改善につなげる。 ・研究保育を行い，幼児の実態や教師の援助・環境構成について学びあう。 ・先進園に視察に出かけ学び，園内で伝達研修を行う。 ・第１年次の研究報告会を開催する。

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

○　エピソード研修や研究保育による実践研究の推進

・　エピソード記述による幼児の心の動きの丁寧な読み取りと考察をした。

・　教育課程の期ごとに，その期の特徴と考えられる幼児の姿から，自己発揮や折り合い，気持ちを調整する力がどのように育まれていくのか発達の道筋を捉えた。

・　研究保育を行い，幼児の実態や環境構成，教師の援助について協議した。

○　同一幼児の追跡による変容の姿の検証

・　自己発揮することを願っている幼児の葛藤，自己発揮の変容を探った。

○　講師を招いての研究の検証

・　エピソードの読み取りの視点や教師の援助について指導を受け，協議した。

・　研究の進め方やまとめ方などについて指導を受け，協議した。

○　先進園への視察

・　先進園の研究発表会等に参加し，保育環境や教育課程等について学んだ。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

○　幼児の「自分の気持ちを調整する力」のキーワードとなる「折り合う」姿を捉えた。

・　他の幼児の中で自分がどのように生活していくとよいかに気付くこと

・　集団の中でも自分の力を発揮し，遊びに夢中になり探究していくこと

・　学級や仲間の中で自己が認められ，集団の中で自分の存在感をもつこと

★　自己発揮と折り合いを繰り返しながら，自己肯定感や有用感を高めていく。

○　「折り合う」姿がどのように育っていくのか，事例を通して以下のように捉えた。

①教師と折り合うことを通して初めての集団生活の環境に慣れ，信頼のおける教師に支えられることで自分のことが自分でできる喜びを感じ，自立への自信をつけていく。

②遊びの中で様々に自己を表出し，教師の周りにいる幼児と場を同じにしながら教師と共に折り合う。

③遊びを共有した友達とかかわりを深めながら，教師と共に折り合う。

④遊びたい友達と一緒に遊びを続けるために友達と折り合う。教師がつないで折り合っていた時期から，幼児同士が自分たちでなんとか折り合おうと葛藤したり，自分はどうしたいのかと自己を見つめたりする大事な時期である。

⑤かかわりを広げることで自分自身と折り合う。

⑥これまであまりかかわることのなかった友達や異年齢の友達ともかかわりを広げながら教師に支えられ友達と折り合っていく。

⑦クラスや学年など集団のみんなの中で折り合っていく。集団の中で自分の力が生かされ認められることに喜びを感じるようになる。

（２）研究成果の意義等

幼児の気持ちを調整する力が育つ過程や指導の在り方を明確にすることは，自立心や自律性を育む幼児期の教育の重要性の発信と小学校教育への円滑な接続を図ることができる。

（３）研究２年目へ向けての課題と改善

今年度の研究から見えてきた「７つの姿」を確かなものとするために検証し，自立心，自律性を育む教育課程を編成する。さらに，気持ちを調整する力を育む教師の援助，指導について具体的にしていく。また，研究の前提である遊びの充実をめざし，遊びを継続し，人とのかかわりが深まる環境について考える。